

● 世界経済そのもののポートフォリオ

——世界の工場は、なぜ分散し始めたのか

最近、こんなニュースをよく見かけます。

「AppleがインドでiPhoneの生産を増やしている」

「アメリカで半導体工場が建設されている」

「日本でも新しい工場への投資が増えている」

一つ一つを見ると、別々のニュースに見えます。

でも少し離れて眺めてみると、共通した動きが見えてきます。

世界の企業が、一つの国に集中することを避け、いくつかの国に工場や生産能力を分け始めている。

これはなぜなのでしょう。

1. 一か所に集めると効率がいい

例えば、ある会社がスマートフォンを作っているとします。

一つの地域に、

部品工場
組立工場
倉庫
物流会社
技術者

が集まっていれば、とても便利です。

必要な部品をすぐに運べます。

輸送費も抑えられます。

工場同士の連携もしやすくなります。

長い間、世界の製造業では、

「一番効率の良いところへ集める」

という考え方が重視されてきました。

その代表的な場所の一つが中国でした。

2. ところが「集中」には弱点があった

一か所に集めることには大きなメリットがあります。

しかし、弱点もあります。

もし、その地域で大きな問題が起きたらどうなるでしょう。

工場が止まる。

部品が届かなくなる。

船が動かなくなる。

製品を作れなくなる。

一つの場所に集めすぎていると、**一つの問題が全体の問題になってしまう**のです。

そこで企業は考え始めました。

「少し費用が増えても、別の場所でも作れるようにしておいた方が安全なのではないか」

3. これは「分散投資」とよく似ている

株式投資では、一つの会社だけに全財産を投資するのは危険だと言われます。

その会社に問題が起きれば、大きな損失になるからです。

そこで、

A社にも投資する。

B社にも投資する。

C社にも投資する。

というように資金を分けます。

これを**分散投資**といいます。

世界の製造業にも、これと似たことが起きていると考えることができます。

中国だけ。

ではなく、

中国+インド+ASEAN+米国+日本……

というように、生産する場所を分ける。

言い換えると、

世界経済そのものが、大きなポートフォリオを作り始めている

と見ることができます。

4. 中国から全部出ていくわけではない

ここは大切なところです。

「インドに工場を作る」

と聞くと、

「では中国の工場を全部閉めるの？」

と思うかもしれません。

そうとは限りません。

中国にはすでに、

たくさんの工場
部品メーカー
物流網
技術者
そして大きな市場

があります。

長い時間をかけて作られたものなので、簡単には別の国へ移せません。

ですから、

中国をやめる

というより、

中国だけに頼らない

という変化として見る方が分かりやすいでしょう。

中国でも作る。

インドでも作る。

ASEANでも作る。

必要なら米国や日本でも作る。

これが「分散」です。

5. なぜAppleのインド進出が重要なのか

iPhoneは、一つの会社だけで作られているわけではありません。

中には、

半導体

電池

センサー

電子部品

ガラス

さまざまな材料

が使われています。

そして、それぞれを別の会社が作っています。

ですからAppleがインドでiPhoneをたくさん作るようになると、

「私たちもインドに工場を作った方が便利だ」

と考える部品会社が出てきます。

さらに部品会社が増えれば、それを支える材料会社や物流会社も必要になります。

つまり、

Appleの工場だけが動くわけではありません。

その周りにある会社も少しずつ動き始めます。

こうして、新しい産業の集まりができていきます。

6. でも、分散にはお金がかかる

ここで一つ問題があります。

工場を一つ持つより、

中国にも工場。

インドにも工場。

米国にも工場。

とした方が、お金がかかります。

工場を建てる。

機械を入れる。

人を雇う。

技術を教える。

物流網を作る。

すべて費用が必要です。

だからこそ、企業の「**体力**」が重要になります。

お金がある。

技術がある。

人材がいる。

世界各地で仕事ができる。

こうした会社ほど、世界が分散していく変化に対応しやすくなります。

7. 日本企業にもチャンスがある

では、日本はこの変化と関係がないのでしょうか。

そんなことはありません。

世界中の工場では、日本企業が作っている、

電子部品
素材
製造装置
精密機械
センサー

などが使われています。

ここで面白い考え方ができます。

世界の工場がどこにあるかだけでなく、その工場の中で何が使われているかを見る。

中国に工場があっても日本企業の部品が使われる。

インドに移っても日本企業の部品が使われる。

米国に移っても必要になる。

そんな会社なら、世界の工場が移動すること自体が、新しい仕事につながる可能性があります。

8. 世界の地図を「投資地図」として見る

ここまでをまとめてみましょう。

以前の世界は、

効率を重視して、一つの場所へ集中する。

という方向に進んできました。

ところが現在は、

多少費用が増えても、いくつかの場所へ分散する。

という考え方が強くなっています。

これは株式投資で、

「一つの銘柄だけを持つのは危ないから、いくつかに分けよう」

と考えるのとよく似ています。

だから私たちは、この動きを、

「世界経済そのもののポートフォリオ化」

と考えてみます。

ここから何を見る？

この考え方を覚えておくと、ニュースの見え方が少し変わります。

「インドに新工場」

というニュースを見たとき、

「へえ、インドなんだ」

で終わらせない。

なぜインドなのだろう？

と考える。

さらに、

「そこへ部品を納める会社はどこだろう？」

「日本企業は入っているだろうか？」

「次に動く会社はどこだろう？」

と考える。

すると、一つのニュースから次のニュースへ線がつながっていきます。

工場が動く。

部品会社が動く。

お金が動く。

人が動く。

そして最後には、世界経済の地図そのものが少しずつ変わっていく。

これが、

「世界経済そのもののポートフォリオ」

という見方です。

答えを覚える必要はありません。

ニュースを見たとき、

「あれ？世界のポートフォリオがまた少し動いたのかな？」

そう思えたら、それだけで新しい景色が見えてきます。

NIGHT FLIGHT——数字の向こうにある、世界の動きを見に行きましょう。 